

2nd yr.

會話集

卷三

日語文化學校



夏休後のあいさつ

石川夫人

「しばらくでございました。夏はどちらへかいらつ
しやいましたか。」

山田夫人

「はい。子供らがやかましく申しますから二週間は
かり海の方へ行つて居りました。」

石川夫人

「左様でございましたか。お子様方には山の方より
海の方が變化があつてよろこびでございましたで
せう。」

山田夫人

「はい。山の方はちきあきてしまひますが海の方で
は毎日面白く遊びましてまつ黒になつて歸りました。」

石川夫人

「左様でございましたか。皆さんが御運動が十分に

お出来になつてよろしうございましたね。

時候のあいさつ

- 一 此頃は十分おすじくなりました。
二 朝晩はよほぐらしよくなりましたが、日中はまだ中々おあつうございますね。
三 朝晩はらくになりましたね。

秋季皇霊祭

-2- 花子 九月の廿四日は祭日で學校もお休でございますね。

東京外国語大学
図書館蔵書

673691

平成 23 年度

外人「どうしたお休でございますか。」
 花子「日本には春と秋の彼岸の中日に春季皇霊祭
 皇霊祭と言つて、天皇陛下が宮中で御先祖の霊を祭
 られる日でございます。」

外人「彼岸の中日は何でございますか。」
 花子「彼岸は春と秋にあつて、七日の間で此頃は晝
 夜の長さが大抵同じやうで、秋の彼岸から夜がだん
 だん長くなりますが、其の中の日を中日と云ひます。
 そして其日が晝夜平分の日でございます。此頃にな
 りますと空がよく晴れて散歩にはよい時節になり、
 夜は蟲の音を聞き、すみきつた空にかゞやく月の光
 もきれいでございます。週末旅行に鎌倉江の島あた

リへ出かけるのも面白うございますね。

鎌倉かまくらの話

鎌倉かまくらは七百年程前に源頼朝みなもとよりともが幕府ばくふを開いた頃には、大それたにぎやかな土地でありました。幕府ばくふの跡あとなども今は全く田畑はたけになつて何一つ残のこつて居りません。今は名高い遊覽地ゆうらんちの一つで東京からは一時間あまりで行かれます。停車場ていしやば近くの八幡宮はちまんぐうには別當公曉べつとうこうけいが實朝さねともを殺す時にかくれて居たと云ふ大きな銀杏いんぎようの木も青々としげつて居ます。静しづか舞まいをまつて義經よねきに別れた事を悲しんだと云ふ舞殿まいどのも残のこつて居ます。

鎌倉宮と云ふのは大塔宮護良親王を祀つた御社で、親王
 が足利氏のためにおしこめられた土の牢屋も昔のまゝに
 残つて居ます。これを見ると誰も足利氏の無道をにくみ
 親王のおいたはしい最期を悲しまない者はありますまい。
 此他有名な建長寺や圓覺寺の立派な寺も見のがしてはな
 りません。また高德院の大佛が奈良の大佛について大き
 い銅像で三丈五尺の阿彌陀如來が堂もなくてひろい庭の
 中に坐つて居ます。これはやはり鎌倉時代に出來たもの
 で俗に長谷の大佛として知られて居ます。
 又由井ヶ濱は水清く遠淺で、夏は海水浴によい所で大そ
 うにぎやかであります。

江の島は電車を片瀬で下りて砂地を二三町歩くと長い桟橋のたもとへ出ます。ふめば動くやうな粗末な橋ですがこれは時々大波が来てこはすからわがと粗末なものを造つておくのでせう。島の名物は貝細工とさぐゑのつばやきとです。神社は前と中と奥と三ヶ所にあります。高い所に立って西南の方を見ると相模灘をへだてゝ箱根や天城の山々が見え、そして白雪をかぶった富士山もはるかにはそはだつて居ます。島の左の方に辨天窟と云ふのがあります。深さ四十間位で其の中には石の佛があり、弘法大師や文覚上人の古跡もあります。うすぐらくて天

江の島の島

じやうからしづくがおちて氣味のわるい所です。

吉凶進物

人に物を上げる時昔は進物の印にのしあはびを用ひたのです。それが變つて今のやうなのしになつたのです。のしあはびはあはびの肉をうすくのしたものでそれを紙に包んで贈物にそへた形が今ののしにのこつて居ます。それですから今でも魚や鳥を贈る時にはのしは附けません。

人の死んだ時などの贈物には魚や鳥などを用ひませんか

らのしも附けません。
 土産ものや結婚のお祝や出産祝還暦の祝又は旅行餞別な
 どの贈物其他中元歳暮などの贈物を奉書紙或は半紙に包
 み、金銀紅白の水引をかけてしはるのです。其時金銀紅は
 右、銀白は左にかけて蝶むすびにします。其のわけはや
 さしく又むすびなほす事が出来るからたび／＼そんなよ
 るこびをかさねる希望を表したものの結婚は一度だけの
 事です。から金銀紅白の水引で結びきりにします。又もう一
 度出来ない意味を表したものです。
 そして人の死んだ時には菓子、果物、香、花などを贈り
 ますが、普通香典とかお花料とかとしてお金を包み、黒
 水引又は白水引或は黒白の水引をかけて結びきりにする

のです。

もう一度そんな事のないやうに云ふ意味でせう。

贈答品のあいさつ

一 〇これはまことに粗末な物でございますが江の島から
持って歸りましたからお目にかけます。

二 〇おめづらしい物をいたゞきましてどうもありがたう
ございました。どうぞ皆様へよろしく。

一 〇これは本當に粗末なもので、ございますがおよろこ

二 〇左様のお印にさし上げます。けつ、こんな物をちやうだい致

一 しまして本當ほんたうにありがたう存ぞんじます。
一 此れは他所よそからの到來物とらいものでございすが少しばかり
おすそわけ致します。

面會めんくわいを求めもとる時の言葉ことば

一 御主人ごしゅじん様は御在宅ございたくでいらつしやいますか。
二 興きよう様はおうちでいらつしやいますか。
三 一寸いちゆつと御目ごめにかゝりたくて伺うかがひました。
四 失禮しつれいでございすが一寸いちゆつとこちらでお目ごめにかゝらせて
いたゞきたうございします。

面會めんくわいのあいさつ

- 一 〇とつぜん伺うかがひまして大へん失禮しうれいいたしました。
- 二 〇御多忙ごたばう中大へんおじやまいたしました。
- 三 〇夜分よぶん伺うかがひまして大へん失禮しうれい致いたしました。
- 四 〇朝早あさはやく上りまして失禮しうれい致いたしました。

紹介せうかいの言葉ことば

- 一 〇このお方は森もりさんとおつしやいまして私のお友達ともだちで
- 二 〇今度こんどこちらへいらしつていたうきました私の先生せんせいで

松山さんとおつしやいます。

紹介されて初対面のあいさつ

- 一 「始めてお目にかゝります、私森でございます。どうぞよろしく。」
- 二 「私松山でございます。どうぞお心安くおねがひ致します。」

赴任のあいさつ

-12-
一 「私今度こちらの學校へまゐりましたが何分よろしく。」

ニ、始めてこちらへ参りましたが何分皆様の御指導をおねがひ致します。

神嘗祭かん なめ さい (十月十七日)

田の稲がみのりました、そして風が吹くと田の上には金色の波が立ちます、もうちぎに刈り取られるでせう。太郎は刈り取られた新しい米を誰が一番先に食べるでせうとお父さんに尋ねました。父、一番先に天照大神に供へるのです。太郎、天照大神とはどなたですか。父、日本の國の一番の御先祖で稲を作る事をお教へにな

ったお方です。それですから一番先に新らしいお米
を供へるのです。其日が毎年十月十七日で其の祭日
を神嘗祭と云ひます。

伊勢神宮

伊勢神宮は宇治山田にあります。内宮外宮の二社に分れ
て居ます。伊勢参宮又はお伊勢まゐりと云つて曰々全
國から参詣する者が多うございます。皇族以外の者はだ
れも内殿に入る事は許されません。皇祖天照大神を祭る
本で一番神聖な場所でございます。
神殿は二十年毎に建てかへられる筈になつて居りますが

純日本古代式で全部白木造り
金色の金物がきら／＼と
日にかざやくばかりで、其外何のかざりもありませんが
見るからさうごんで周囲は杉や楠の老樹が枝をまじへて
空に高く自然宗教的氣分に打たれます。

いろは假名

子供が小學校に入つて一番始めに習ふことはアイウエオ
であります。片假名又は平假名は誰が作ったものでせう。
かん字はもちろん支那からわたつて來たもので日本も大
昔は皆漢字で書いたものでありました。片假名は漢字の
一部分を取つてつかつたものです。

平假名は誰が作ったのか確な事は分って居ませんがいろ
 は歌は弘法大師が作ったものと云はれて居ります。
 弘法大師は四國讃岐の人で子供の時から一心に學問して
 二十歳の時に佛教を修業し一四六四一唐に留學し二年
 の後に歸りて真言宗を始めた方で學問書画彫刻が上手で
 あつたが中でも字を書くことが名人で日本三筆の一人
 でありました。
 いろは歌があるために教育する人もされる人も大へん便
 利であります。
 このアイウエオも日本の言葉の性質を知るために大へん
 便利でふくやつな日本語の文法を作るのに大切であり
 ます。文章を讀んだり書いたりするにはこの二つの物が

必要でこれがなかつたら読み書きする事がどんなにむづかしいか。つたのでせう。日本が早く文明國となつたのは弘法大師のお蔭もたくさんあると思ひます。

いろは歌

いろはにほへと　ちりぬるを
わかよたれそ　つねならむ
うゑのおくやま　けふこえて
あさきゆめみし　ゑひもせす。

日光

東照宮は栃木縣日光町にあつて徳川家康を祭つてあります。習体山を中心として多くの山が東西に列り山中に湖水や龍もあります。

この自然の景色を後にして東照宮が建てられてあります。徳川家康は駿河の國で死にましたのでへ二二七六一一時は久能山にはふむつてありましたが後でこの日光山に改葬しました。

今の社殿は三代將軍家光の時日本中の大名に費用を出させてこしらへたもので、其頃有名な画家や彫刻家や建築家を集めて工事に十二三年の月日を費しました。

陽明門は日暮門とも云ひますが一日中ながめて居ても見
 あきがしなひのでさう云ふのです。社殿はのこらず朱ぬ
 りの極彩色で金銀をちりばめて實に立派なものでそれが
 杉の緑に包まれてまるで繪のやうです。ですから日光を
 見なければつかうと云はれないと云ふ程です。一度日
 光の社殿を見れば徳川氏が三百年間の榮華と権力を實
 地にながめるやうな心地がします。
 東照宮から西へのぼると三里ばかりで男体山のふもとに
 出ます。其所には鏡のやうに美しい中禪寺湖があります。
 この湖の水がおちて華嚴龍となつてはげしい勢で四十丈
 の高い所からとびおちるのでごさいます。そしてこの水
 が流れて大谷川となり社殿の前をさらりと音を立てゝ

流れて居ます。

東照宮が出来た時大名は皆高價な燈籠などを献じました。ところが其中に一人全く變つた物を献じた大名がありました。それは永遠の記念に杉並木を作る事でした。日光山内から今市まで二十年あまりの年月を費して植え付けたもので今汽車の窓から見ると杉並木は世界の一名物として知られて居ます。

日光だけの見物なら朝早く上野を出る汽車で行くと日歸りが出来ます。

紅葉は十月中旬から十一月の初めまでが見頃です。

明治節

(十一月三日)

十一月三日は百二十二代明治天皇のお生れになった日であり、御在世中はこの日を天長節としてお祝ひ申上げたのでありましたが、新日本建設の大帝の御誕生日で、私共の忘れる事の出来ない祝日でありましたので、御前御の後、も大帝を記念する心からこの日を明治節として祝日の一に加へられたのであります。

日本は明治天皇の時代に全く生まれ更ったのでありますが、是は英明な明治天皇が進取開國の主義で新らしい文化を取り入れ、寝食もお忘れになつて國のためおつくしになつたお蔭でございます。

明治天皇の時代に新日本の基が築かれたのであります。
この大帝の御誕生のお祝日は日本の國民には何時までも
記念される日であります。

轉宅の時舊宅の隣へ

私、今度郊外の方へ引越す事になりましたが長い間いろ
いろお世話になりました。今後もうどうぞ相かはら
ずよろしく。又あちらをお通りの節はどうぞお立寄
りをお願ひ致します。どうぞ皆様へよろしく。
隣、わが／＼どうも恐入りました。私共こそいろ／＼お
世話様になりました。ありがとうございました。この後

も相かはらずよろしく。

轉宅の時新宅の隣へ

-23-

習慣は所によつて色々ちがひます。東京では轉宅の時新しい宅の隣へ先づ引越した日におそばの切手をくばります。向ふ三軒両隣と云つて一番近いお隣へおそばを三つ又は五つ切手にして名刺をつけておそばやさんにとどけさせます。そして其日又は次の日に主人がお隣へあいさつに行きます。お隣からも又あいさつに来ます。これで両方のあいさつがすみます。

日本では引越した方が先きにお隣へあいさつに行くのが

禮儀れぎですから、もしこちらから行かなければいつまでたつてもお隣となりとしたしくなる事は出来ません。

あいさつ

私わたし 今度お隣となりへ赴おもむして参まゐりました竹中でございます。どうぞお心こころ安やすくお願ねがひ申まう上げます。一寸御ごあいさつに上ありました。どうぞよろしく。
隣となり 左様さやうでございますか、それはどうも御ごていねいに、こちらこそどうぞよろしく。

遠とほい親戚しんせきよりも近いお隣となりと云いつてお隣となりは本當ほんたうに大切たいせつでございますから、ふだんから氣きを付けて交際こうさいしなければな

りません・もちろん毎日訪問するわけではありませんが
お正月などにはかならず年始のあいさつに行くのです。

新嘗祭 (十一月廿三日)

新嘗祭は毎年十一月廿三日に行はれる大切な國の祭の一
つで天皇陛下が新らたにみのつた米を天の神地の神に供
へて新穀の恵を感謝なさいます。そして陛下御自身にも
お上りになつて新穀のみのりをお祝ひになります。それ
です。此の新嘗祭の式は日本では大昔から行はれて居り
ます。

留守見舞

夫人

「お母様がお留守でおさびしうございます。べつにおかはりもおありになりますか。」

千代子

「はい、ありがとうございます。おかげさまで無事でございます。」

夫人

「お母様は長くあちらに御逗留でいらつしやいますか。」

千代子

「はい、親戚に商人があつて参りましたものです。かしはらくあちらに居なければならぬと存じます。」

夫人

「左様でございますか。それは御心配でございます。ね、お留守に何か御用がございましたら何でもおつ

しやつて下さいませ。
千代子「ありがとうございます。又何かよろしく願ひ
致します。」

暇乞いとまごみのあいさつ

吉田「長い間御世話様になりましたが今度青森へ参るや
うになりましたから一寸暇乞いとまごみに上りました。ど
うぞ皆様へよろしく。」
林「左様ですか。私共こそお世話様になりましたがそ
れはお名残なごりをうごかします。何日頃いつごろお立ちでいら
っしゃいますか。」

吉田 明後日みょうごにちと思つて居りますが、もうどうをおかまひ

下さいますな。

林 〇お見送りしたいと存じますが、時間じかんの都合ごふで失禮しつれいいたします。どうぞ御道中ごどうちゆうお大事になさいます。皆様へよろしく。

結婚けっこんのよろこび

川本 〇此度お嬢様おやうさまにはお目出度うそんじます。

田中 〇ありがたう存じます。又其節は御ていねいに御祝ごいわい

ひ下さいましてどうもありがたうございます。

川本 〇いゝえ、どういたしまして、ほんのお祝のお印おむしで

ございます。

食事しきじに人を招く言葉まねことば

大山 明後日あうにちお夕飯ゆふげんをさし上げたいと存じますが御都合ごごうご如何いかでございませうか。おさしつかへなければ五時頃までにお出でを願ねがひたうございます。

宮田 ありがとうございます。御免ごめんなりよなしにうかがひます。

大山 何なんでもございせんがお待ちまちいたして居ります。

-29-
宮田 ありがとうございます。まことにおそれ入りました。

た。

悔くやみの言葉

私「おちい様がおなくなりになりましたましてまことにお氣の
毒どくでございます。さを御しうしやうでございませう。
友人「ありがたうございます。生前せいぜんはいろくお世話様
になりました。まことにありがたうございました。

新年のお飾かざり

-30-
十二月の二十日過ぎにはどこの家でも大掃除お掃除や餅つきや

お正月のお飾りや御馳走のじゆんびでいそがしうござい
ます。

お正月のお飾りは門の前にも座敷の内にも致します。門
の前には門松と云つて松竹を立てます。又梅をそへてあ
る家もあります。

松は年中青々として色が変わらない所から、竹は雪などが
ふりつもつても折れず、雪のおちた後は又まつすぐに前
の通りに立つて居る所から、又梅は寒い／＼雪のふる時
でもよいにほみをして咲いて居る所から、人も皆松のや
うにいつまでも色もかはらず生々として居るやうに、又
竹につもつた雪のやうに病氣や心配などの重い雪がつも
つて居る事があつても折れず曲らず、そして梅の花のや

うに重^{おも}い苦^{くる}しみの中でもよいにほひをして居るやうにと
云ふ意味^{いみ}でせう。
そしてお座敷^{ざしき}の床の間にはお目出度^{めでた}い掛物^{かけもの}をかけ、お三
寶^{ぼう}には米^{こめ}、かきみもち、だい／＼、うらじろ、ゆづりは、
こんぶ、かち栗^{くり}、えびなどを飾ります。そして元日^{ぐわんどっ}には
家内^{かない}一同お雑煮^{ぞうじ}を祝ひ、主人は三ヶ日の間に年賀^{ねんが}のあい
さつに御近所^{ごきんじよ}を始め親戚^{しんせき}友達^{ともだち}のうちへ廻ります。大抵^{おほてい}は
年賀の葉書^{はがき}を出しますがどうしても行かなければならな
いうちもあります。
お玄關^{げんかん}には名刺^{めいし}受^{うけ}を出しておきますから普通^{ふつう}名刺^{めいし}をおい
て歸られますが又家の者が出て御あいさつする事もあり
ます。

元旦いねんじつから七日までは松の内と云ってお正月のお客様があ
つたりお正月きふん気分きふんでゆつくりして居ますが八日からは小
學校がくかうなども始はじまりそれくの仕事いごとがいそがしくなりま
す。

新年のあいさつ

一、明けましてお目出めでたうございます。
二、新年お目出めでたうございます。昨年きせん中はいろくおせ
話わ様さまになりましてありがたうございました。どうぞ
今年ことしも相あかはらずよろしくお願ねがひ致します。

京都

京都は一千年の長い間代々の天子様がお住ひになつた所で、東京にくらべるとすべてゆつたりとして、往來の人もやさしく本當に日本らしい氣持がする所であります。京都には御所を始め名所古跡がすゑぶん多うございます。春の京都は本當に花の都、秋は紅葉で見物に出かける人でうづまつてしまひます。

櫻で名高い嵐山の美しい花の下に毛せんをしいて、きれいな重箱をならべ家族そろつてむつまじうにおべんたうをあけて居るのは外國では見られないことであります。京都の都踊も名高いもので、美しい舞子が静かに扇や或

は花の枝を持つて蝶のやうに舞ひ小鳥のやうに歌ふ様は
實にうつくしいものであります。
京都は又お寺で有名なところでございます。其中でも本願寺は佛
教徒のあこがれのお寺で禮拜の場所としては宗教的氣分
に満ちた所であります。

尾形光琳

元禄の頃京都の鞍馬口と云ふ所に尾形光琳といふ畫家が
住んで居ました。或曰近所の人々にさそはれて嵐山へ花
見に出かけました。お金持の人などは美しいまくをめぐ
らし、金銀をぬった重箱においしい御ちそうをたくさん

入れて出かけるのです。光琳と一しよに行つた人々も皆
 お金に少しも不自由のない人々でしたので、おともに持
 たせおべんたうの重箱はみなりつばな品ばかりでした。
 光琳はふるしき包をこしに下げてべつに大したおべんた
 うを持って行きませんでした。

一同は清い流れを見下して美しい景色をながめながら、
 花かげに毛せんをしいておべんたうを開きはじめました。
 この人もくみなりつばな重箱を持って来て居まし
 た。

甲「おや、あなたのお重はりつばな物でございますね。」
 乙「いゝえ、これはふしぎな事で私の手に入りましたが、
 太閤様が利休の茶室へお出でになつた時、おみやげ

になされたものがこのお重であつたさうでござい
す。あなたの其お血も大そうおりつばなものでござ
いますね。

甲「これでございしますか。これは備前でございしますが、

一寸面白^{おもしろ}い色が出て居ますので、

おべんたうを開きながら先づはじめに出るのはお重箱な
どのじまん話です。

光琳はそんな事には少しもかまはず、自分の持つて来た
ふろしき包をくるくるとほいて中から竹の皮包^{かわづみ}のおべ
んたうを出しました。

そして平氣で皮包^{かわづみ}をあけて粗末^{こまつ}なにぎりめしを一つとり
上げてたべはじめました。

一同が

「あつとおどろきましたのは

竹の皮のうらからりつばな金色の光がぴかぴかと光りました。
よく見ると竹の皮のうら一めんにも目もさめるやうな山水
花鳥の繪がうき上つて居ります。其の美しい事は咲きほ
こつて居る春の花よりもりつばでございました。

光琳は決して人をおどろかさうと思つて竹の皮のうらを
かぶつたのではありません。竹の皮を見た時にきふに其
のうらに繪を書いて見たくなつたのでせう。氣に入らな
い時はどんなに澤山お金をもらつても筆をとらないが氣
がむくと一技の竹にでも人をびっくりさせるやうな繪を
書くのです。

春の嵐山の美しい景色を見に来た人々もそろそろ歸る支
度を始めました。すると光琳はさっきの竹の皮をひろひ
上げてそばの流れにをしげもなくすてしまひました。

「まあ、をしいこと。」

人々は思はず聲をあけて走って川の方へ行きましたが、
竹の皮は静かに流れて行つてしまひました。

光琳は繪を書く時の氣分が一番大切であつて出来上つた
物には少しも所有慾がなかつたのです。この慾をはなれ
た氣持が藝術を立派にしたものでございます。

奈良

奈良は日本の古い都で此所にも名所古跡が多うございま

す。停車場を出て東の方へ行くと右の方に猿澤の池がありま

す。そしてそれから老木のくらしい間を通って行きますと

春日神社に着きます。道の両側に大小の燈籠が立ちなら

んで其の数が二千程あります。節分の夜はこの燈籠にみ

な火をともしと云ひます。

東大寺には世界に名高い奈良の大佛があります。これは

大へん大きなもので或時盗人が大佛の鼻の穴に三人かく

れて居たと云はれる程で鎌倉の大佛よりずっと大きうご

言います。そしてこのお寺は世界で一番大きい木造建築物であり、そして又法隆寺は世界で一番古い木造建築物で、堂内の佛像壁画は奈良時代の文明の跡を見る事が出来ます。

即分

一月六七日の頃から二月三四日の頃までが冬の中でも一番寒い時で寒と云ひます。

此の寒が明けると立春になります。立春の前の夜は節分、で家々では「福は内鬼は外」と云って豆まきをします。大豆をいって人の年の数だけ別々に紙に包んで町の四辻

へ行つて「福は内鬼は外」と云つて其の包をすて、後を見ないで歸つて来るのであります。これは病氣や心配のやうな鬼が内から出て平和幸福が家に入るやうにと云ふ意味でせう。

紀元節 (二月十一日)

二月十一日は紀元節で大切なお祝ひ日であります。

此日は日本が大昔今から二千五百九十年の昔に國を建てた記念日で最初の天子様神武天皇が大和の國橿原で天皇のお位にお即きになつた日であります。

-42- 大昔日本の國は大へんみだれて居ました。人々は安心し

日本には昔から五節句と言つて一年中に五つの節句があります。七草の節句（一月七日）雛祭（三月三日）端午

五節句

てくらす事が出来ませんでした。そこで天皇様はわる者共を平げて人々が安んじてくらす事の出来るやうなよい國にするのは御自分の使命だと思ひになつて色々の御なんぎをなさつてとう／＼日本國の基をお築きになつたのであります。

それで日本の天皇様のお位にお即ぎになつた日を國の始めとして記念しお祝ひするのであります。

の節句（五月五日）七夕の祭（七月七日）菊の節句（九月九日）の五つで七草の節句には七種の若菜をつんでお粥をこしらへ家内一同で食べるのです。
 雛祭は女の子のお節句で古い暦では桃の花が咲く頃です。から桃の節句とも云ひます。
 二月の終り頃からお雛さまを段にかやつて桃の花をいけ色々の御馳走を供へ三日の日は子供たちをあつめて御馳走を出しよるこんで遊ぶ日であります。
 それから次は男の子の五月の節句で其頃はどこを見ても青菜の色が生々として居ます。
 そしてそここに鯉のぼりが高く風におよいで居ます。
 五月の節句に鯉のぼりを立てる事は昔からの習慣です。

鯉はあせいのよい魚でこんな流の早い川でもおよいで上
 ります。鯉のたきのぼりと云つてたきでも上る事がある
 さうです。其のやうに子供の一生にどんな故障があつて
 も失望しないでずん／＼元氣よく進んで行くやうにと云
 ふ意味で鯉のぼりを立てるのでせう。座敷には昔のえら
 い人の人形をかざります。たとへば桃太郎や牛若丸、武
 内宿彌や楠正成の人形もかざつてあります。そして五日
 の日には柏餅をこしらへてお祝ひをします。それから七
 夕の祭（星祭）九月のお節句（菊の節句）など今はあま
 り一般にお祝ひしません。



